

統計ニヨリ見タル「インフルエンザ」

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30632

實 驗

統計ニヨリ見タル「インフルエンザ」

金 澤 島 誠 郁

大正七年秋期「インフルエンザ」大流行ニ際シ予ノ診療シタル同病患者ニ就テ調査スルニ
(一) 發病別患者表

月日	男	女	計
20/X	1	—	1
21/„	2	—	2
22/„	2	—	2
23/„	—	—	0
24/„	—	4	6
25/„	5	4	9
26/„	15	3	18
27/„	10	4	14
28/„	11	4	15
29/„	11	8	19
30/„	23	11	34
31/„	15	8	23
1/XI	7	15	22
2/„	14	16	30
3/„	13	10	23
4/„	16	14	30
5/„	15	12	27
6/„	13	8	21
7/„	10	24	34
8/„	14	12	26
9/„	8	10	18
10/„	10	6	16
11/„	13	17	30
12/„	10	11	21
13/„	8	15	23
14/„	9	9	18
15/„	5	10	15
16/„	9	6	15
17/„	9	3	10
18/„	5	7	12
19/„	4	6	10
20/„	3	2	5
21/„	5	6	11
22/„	2	4	6
23/„	3	1	4
24/„	1	3	4
25/„	3	3	6
26/„	2	2	4
27/„	1	1	2
28/„	1	4	5
29/„	3	2	5
30/„	1	1	2
計	312	286	598

上表ノ如ク予ノ最初診療シタル本病患者ハ大正七年十月二十日發病シタル一男子ナリ爾後漸次患者發生數増加シ同年十月二十六日ニ至リ流行ノ盛期ニ入ル第一患者ノ現ハレテヨリ凡ソ一週間ニシテ大流行ノ期ニ達セリ流行ノ初期ニ於テハ男子ハ女子ニ比シテ多數罹患セリ此レ男子ハ日常生活トノ交通繁多ナルヲ以テナリ從フテ家族ニ對スル傳染媒介者ハ男子若シクハ學校生徒ナリ大正七年十月二十六日ヨリ同年十一月十九日ニ至ル大凡二十五日間ハ流行期ニシテ就中其ノ上半期ハ最モ多數發生セリ從來ノ「インフルエンザ」大流行ト其ノ期間ヲ同フス大正七年十一月二十日ヨリ漸

(二) 次患者發生數ヲ減ジ十二月ニ至リ益々減少シタリト雖モ現今(大正八年一月下旬)ニ至ルモ跡ヲ絶タズ。
 (二) 年齢別「インフルエンザ」表

年 齡	男	女	計	年 齡	男	女	計
一歲	3	0	3	一歲	6	6	12
二歲	5	6	11	二歲	18	4	22
三歲	6	2	8	三歲	2	8	10
四歲	7	4	11	四歲	2	2	4
五歲	6	7	13	五歲	6	2	8
六歲	10	8	18	六歲	1	4	5
七歲	8	10	18	七歲	1	2	3
八歲	5	9	14	八歲	2	2	4
九歲	6	4	10	九歲	2	1	3
一〇歲	6	5	11	一〇歲	2	2	4
一一歲	15	7	22	一一歲	2	4	6
一二歲	8	8	16	一二歲	2	0	2
一三歲	11	3	14	一三歲	2	1	3
一四歲	13	12	25	一四歲	1	1	2
一五歲	9	5	14	一五歲	1	1	2
一六歲	5	8	13	一六歲	1	1	2
一七歲	8	10	18	一七歲	0	1	1
一八歲	3	13	16	一八歲	1	1	2
一九歲	5	4	9	一九歲	1	1	2
二〇歲	6	8	14	二〇歲	1	1	2
二一歲	7	9	16	二一歲	1	1	2
二二歲	5	5	10	二二歲	0	1	1
二三歲	5	6	11	二三歲	0	1	1
二四歲	3	5	8	二四歲	0	1	1
二五歲	5	4	9	二五歲	1	0	1
二六歲	7	5	12	二六歲	1	0	1
二七歲	3	6	9	二七歲	0	1	1
二八歲	3	4	7	二八歲	0	1	1
二九歲	3	5	8	二九歲	0	1	1
三〇歲	3	3	6	三〇歲	0	1	1
三一歲	3	2	5	三一歲	0	1	1
三二歲	4	5	9	三二歲	0	1	1
三三歲	5	6	11	三三歲	0	1	1
三四歲	5	5	10	三四歲	0	1	1
計	312	286	598	計	312	286	598

(107)

予ノ診療シタル「インフルエンザ」患者ヲ年齢別ニヨリ觀察スルニ學童年齢ヨリ三十歳前後ノモノ最モ多數罹患シタルガ如シ此ノ年齢ニ於テハ學生及ビ生徒ハ學校ニ於テ感染シ其他ハ外界トノ交通繁多ナルヲ以テ感染機會多ケレバナリ年齢進ムニ從ヒ漸次減少シ五十歳以後ニ至リ罹患數著シク減少ス此レ傳染機會ノ少ナキノミナラズ老人ハ身体ヲ温包シ過勞スルコトナキニヨリ感冒(「インフルエンザ」ニ非ラズ)ニ罹ルコト少ナキモ一理由ナリト信ズ「インフルエンザ」ハ感冒ト過勞ニ密接ノ關係ヲ有ス感冒及ビ過勞ヲ避クルハ「インフルエンザ」豫防上最モ重大ナルモノト信ズ、小兒モ亦「インフルエンザ」ニ罹患シタレドモ大人ニ比シテ少數ナリトス「インフルエンザ」患者總數五百九十八名中四十

一歳以上ノモノ百十三名ニシテ總數ノ一八・九%十五歳以下ノ小兒ハ百九十名罹患シ總數ノ三一・六%ナリ。
 今回流行セル「インフルエンザ」ハ大人ニ於テハ惡寒發熱ノ外ニ上氣道特ニ喉頭加答兒、氣管加答兒、頭痛、背部腰
 部四肢ノ疼痛、食慾不振、著シキ倦怠、比較的多數ニ下熱時ニ鼻出血ヲ來タシ、熱ノ持續四十八時間内外ノモノ多シ。
 小兒ニ於テハ熱發次デ嘔吐及ビ食機不振等消化器ヲ犯シ上氣道ノ加答兒ハ大人ニ比シテ輕度ニシテ熱ノ持續短カク一
 般ニ輕症ナルモノ多シ而シテ小兒ノ罹病率ハ大人ニ比シテ小ナリ本病患者總數五百九十八名ニシテ内男子三百十二名
 女子二百八十六名ナリ。

(三)、年齢別「インフルエンザ肺炎」

年 齡	男	女	計	年 齡	男	女	計
當二	—	—	—	四	1	1	2
三	—	—	—	四	—	—	—
四	—	—	—	四	—	—	—
五	—	—	—	四	—	—	—
六	1	1	2	四	—	—	—
七	—	—	—	四	—	—	—
八	—	—	—	四	—	—	—
九	—	—	—	四	—	—	—
十	—	—	—	五	—	—	—
十一	—	—	—	五	—	—	—
十二	—	—	—	五	—	—	—
十三	—	—	—	五	—	—	—
十四	—	—	—	五	—	—	—
十五	—	—	—	五	—	—	—
十六	—	—	—	五	—	—	—
十七	—	—	—	五	—	—	—
十八	—	—	—	五	—	—	—
十九	—	—	—	五	—	—	—
二十	—	—	—	五	—	—	—
二十一	—	—	—	五	—	—	—
二十二	—	—	—	五	—	—	—
二十三	—	—	—	五	—	—	—
二十四	—	—	—	五	—	—	—
二十五	—	—	—	五	—	—	—
二十六	—	—	—	五	—	—	—
二十七	—	—	—	五	—	—	—
二十八	—	—	—	五	—	—	—
二十九	—	—	—	五	—	—	—
三十	—	—	—	五	—	—	—
計	20	25	45	計	20	25	45

上表ニ示スガ如ク年齢ニ於テ肺炎ヲ起スコトハ殊ニ小兒、大人、老人ノ區別ナシト雖モ「インフルエンザ」ノ罹病率ニ比シ老人ハ肺炎ヲ續發スルモノ多ク小兒ハ肺炎ヲ續發セシモノ比較的少シコレ昨年流行ノ小兒「インフルエンザ」ハ症狀輕カリシニヨルナラン。

「インフルエンザ」患者總數	小兒(十五歳以下)	インフルエンザ總數	= 31.6%
598	190		
肺炎患者總數	小兒(十五歳以下)	肺炎患者總數	= 20.0%
45	9		
「インフルエンザ」患者總數	老人(四十二歳以上)	インフルエンザ總數	= 18.9%
598	113		
肺炎患者總數	老人(四十二歳以上)	肺炎患者總數	= 22.0%
45	10		

上表ニ示スガ如ク老人ノ「インフルエンザ」罹病率ハ小兒ノ罹病率ニ比シテ少シト雖モ肺炎ヲ續發スル點ニ於テハ却ツテ老人ニ多ク凡ソ小兒患者ノ倍數肺炎ニ罹ルコトヲ知ル。

(一)、「インフルエンザ」肺炎ノ區別

肺炎ハ「インフルエンザ」ニ於テ最モ屢々發シ且ツ最モ重要ナル合併症ニシテ「インフルエンザ」ノ死亡率ニ對シテ多大ノ關係ヲ有スルモノナリ。「インフルエンザ」ト肺炎ノ關係ニ就テハ從來多數ノ學者間ニ議論アリ肺炎ハ合併症トシテ來タルモノナルカ或ハ「インフルエンザ」ノ一病型ニシテ原發性ノモノナルカニ就テ諸家ノ説明異ナリシガバイフェルベック及ビワッセルマン諸氏ニヨリ肺炎滲出液中ニ多數ノ「インフルエンザ」菌ヲ證明セラレ純粹ニ「インフルエンザ」菌ニヨリ惹キ起コサレタルモノナルコトヲ確メラレタル以來之レヲ「インフルエンザ」肺炎型ト稱スルニ至レリ。

予ノ診療シタル肺炎患者ハ大多數ハ續發肺炎ニシテ四十五例中僅ニ一例ノ原發性「インフルエンザ」肺炎ヲ見タルノミ(菌型ニ就テ論ゼズ)。

原發性「インフルエンザ肺炎」一例

金澤市安江町〇十〇番地

大工職人 小 谷 理 〇 年 齡 十 九 歲

患者生來強壯嘗テ著患ナシ大正七年七月脚氣病ニ罹リ下肢ノ知覺異常ヲ覺ヘ一週日余ノ治療ニヨリ全治爾後日々劇シキ勞動ニ從ヒ何等心臓障害ヲ覺ヘズト云フ大正七年十月二十三日朝來倦怠アリ依テ休業ス同日午后惡寒頭痛腰痛并ニ四肢ノ疼痛咳嗽アリ感冒ニ罹リシヲ感セシテ以テ同日夜近隣ノ湯屋ニ至リ一浴ヲナシ歸來臥床同夜安眠セズ翌十月二十四日朝來惡寒ア

リ倦怠著シク既ニ漸クニシテ便所ニ到レリト云フ同日午后一時初診。体格營養共ニ頗ル佳良、顔貌蒼白、口唇及ヒ其ノ周圍并ニ指端「チアノーゼ」ヲ呈ス呼吸著シク速迫シ脈搏微弱ニシテ百五十至漸クニ數フ体温三十七度二分既ニ虚脱狀態ニアルヲ知ル胸部打診上右背下部肩胛骨下角以下比較的濁音(左胸ニ比シテ)アリ同部氣管支呼吸音及ヒ捻髮性小水泡音ヲ聽ク腹部異常ナシ膝蓋腱反射存在下肢ノ知覺異常ハ患者ノ確答ヲ得ズ同日午後四時死亡。

上記ノ如キ「インフルエンザ」ニ罹ルト同時若シクハ短時間ニテ肺炎ヲ發シタルモノハ僅ニ一例ニシテ他ノ四十四例ハ「インフルエンザ」發病後少ナクモ四日後ニ續發シタルモノトス我金澤市ニ於テ「インフルエンザ」發病後三四日ニシテ肺炎ニテ死亡セルモノ少數アリト聞ク恐ラク原發性「インフルエンザ」肺炎ナル可シ各地ニ於テ發病數日ニシテ死亡セルモノ多數アリト聞ク。

- 肺炎 45 { 原發性インフルエンザ肺炎…………… 1
- { 續發性インフルエンザ肺炎…………… 44
- (二) 續發性肺炎ノ種類

- 肺炎 45 { 大葉肺炎型…………… 4
- { 小葉肺炎型…………… 41

「インフルエンザ」ニ續發スル肺炎ハ大葉肺炎型ノモノト小葉肺炎型ノモノ及ビ上記混合型ノモノト三種ニ區別セラ、予ノ治療セル肺炎患者ハ大葉型ノモノ四例小葉型ノモノ四十一例ナリ小葉肺炎ハ聽診上最初限局セル部分ニ炎症性病竈ノ生ジタル徴トシテ捻髮性水泡音ヲ聽取ス而シテ氣管支炎ヨリ續發シタルモノナレバ肺ノ後下部ニ小水泡音ヲ聽ク時トシテ氣管支呼吸音ヲ認ムルモノアリ打診上ノ變化ハ頗ル不分明ナルモノ多ク細心ニ検査シテ比較的ノ濁音ヲ呈

スルヲ知ル場合アリ時トシテ殆ド變化ナキモノアリ純濁音ヲ呈シタルモノナシ只肺炎ガ治癒極メテ遅ク浸潤ノ永キモノニ於テノミ濁音ヲ呈シタルモノアリ小水泡音ヲ肺後下部殊ニ最初右側ニ於テ認メタルモノ多ク後ニ兩側ノ後下部ニ小水泡音ヲ聴取セリ。

上記ノ如ク理學的變化ノ甚ダ僅微ナルモノ甚ダ多數ニシテ症狀重症ノモノト雖モ僅微ノ變化ニ過ギザリシモノアリ解熱ノ前後ニ喀血又ハ血痰ヲ出セシモノ甚ダ多數ニシテ熱ノ持續四日乃至五日ナルモノ多數ナリ。

(三)、妊婦ノ肺炎

妊婦ノ「インフルエンザ」ニ罹リタルモノノ八例ニシテ内肺炎ヲ續發セザルモノ五例、肺炎ヲ續發シタルモノ三例ニシテ内一例ハ分娩後死亡セリ。

妊婦ノ「インフルエンザ」ニ罹リタルモノノ八例ニシテ内肺炎ヲ續發セザルモノ五例、肺炎ヲ續發シタルモノ三例ニシテ内一例ハ分娩後死亡セリ。

妊婦ノ肺炎ヲ續發シ死亡シタルモノノ一例

金澤市榮町〇十〇番地

無 職 鴻 ○ サ ツ 二十一歳

患者生來強壯骨テ著患ナシ妊娠九ヶ月大正七年十月十八日朝來惡寒發熱頭痛背腰部及ビ四肢ノ疼痛倦怠ヲ覺エ午後二至リ喉頭痛咳嗽略痰自ラ「インフルエンザ」ニ罹リタルモノト知り賣藥「キナピリン」ヲ服シ治癒ヲ待ツ發病以來四日ヲ經過スルモ益々症狀増悪セルヲ以テ治ヲ求ム。

十月二十一日初診、体格營養共ニ佳良、顔貌蒼白、呼吸稍速迫、体温三十九度七分、脈搏百十五至、咳嗽頻發略痰少量惡寒頭痛腹痛食機欠乏等アリ胸部打診シ左右共異常ナシ聴診上左右肩胛骨下角以下ニ於テ水泡音多數ヲ

(四)、肺炎ノ男女別

實 驗

肺炎ヲ起サザリシモノ……………5
肺炎ヲ起シタルモノ……………3
肺炎ニテ死亡シタルモノ……………1

聴ク。

十月二十二日呼吸困難著シク左右兩肺後下部ニ於テ有響性水泡音ヲ聴ク打診上同部鼓性濁音ヲ呈ス咳嗽頻發シ短少トナル体温四十度一分脈搏百二十四

十月二十三日口唇及ビソノ周圍「チアノーゼ」ヲ呈ス体温三十八度六分脈搏百二十四胎兒ノ下降セル感アリト云フ胸部理學的變化前日ニ同シ同日午後十一時分娩。

十月二十四日虛脫狀態ニ陥リ脈搏微弱ニシテ觸レズ同日午前七時死亡。

肺炎	45	}	男	20
			女	25

肺炎四十五例中男子二十例ニシテ女子二十五例女子ノ肺炎ニ罹リタルモノ多數ナリ。

(五)、肺炎ノ轉歸及ビ「インフルエンザ」ニヨル死亡者ノ病名

肺炎	45	}	治癒	38
			死亡	7

肺炎四十五例中治癒セルモノ三十八例ニシテ死亡セルモノ七例ナリ、七例中合併症ヲ有セルモノ五例ニシテ二例ハ肺炎ニヨリ死亡シタルモノナリ、今ソノ合併症ヲ擧グレバ左ノ如シ。

- 一、加答兒性肺炎(肺結核ヲ合併セルモノ)。
- 二、加答兒性肺炎(大動脈閉鎖不全ヲ合併セルモノ)。
- 三、加答兒性肺炎(脚氣ヲ合併セルモノ)。
- 四、加答兒性肺炎(腸チブス快復期中衰弱ヲ貽セルモノ)。
- 五、加答兒性肺炎(妊娠九ヶ月)。
- 六、加答兒性肺炎二名。
- 七、心臟麻痺(八十歳ノ高齢者)。